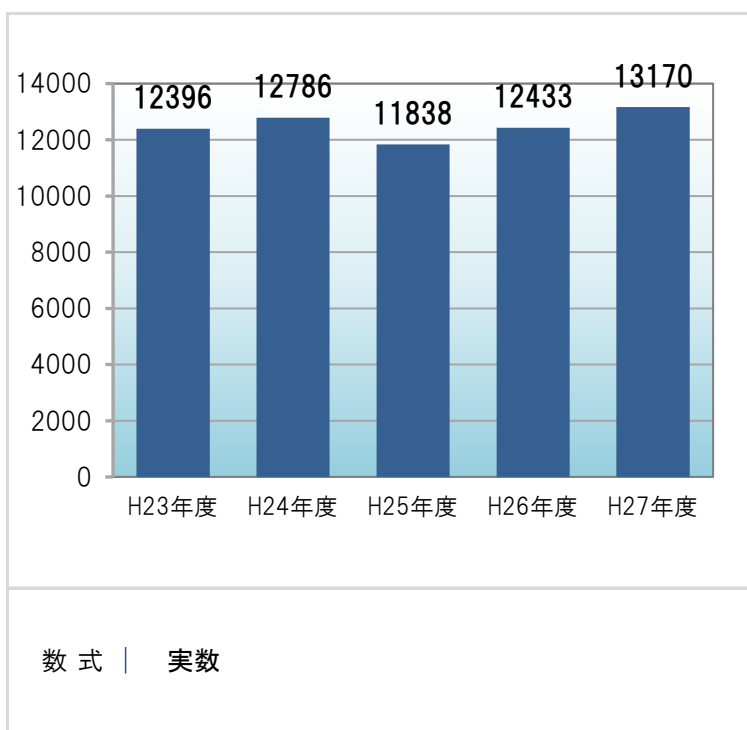


16 組織診病理診断件数

● 項目の解説

大学病院においては、高度な治療を行うだけでなく、その前提となる診断が適切になされることも大切です。正確な診断の最終根拠として、病理診断が要になりますが、診療全体の中で病理診断が必要となる状況がどの程度あるかを示す指標です。

● 当院の実績



単 位 | 件

期 間 | 年間

備考・コメント

手術件数の増加に伴い、病理診断件数も増加傾向にあります。

平成27年度国立大学病院平均値
 (100床あたり) 1,319.13件
 (平成27年度当院 100床あたり 1,259.08件)

● 定 義

医科診療報酬点数表における、「N000 病理組織標本作製(T-M)」および「N003 術中迅速病理組織標本作製(T-M/OP)」の算定件数です。入院と外来の合計として、細胞診は含めません。